



Collaboration



# 紐

KUMIBITO

ひとつに  
ひとすじ  
ひと物語

No.6  
前編

2013年1月、小雪が舞い散る福井の地に“大地を照らす太陽のような男”が降り立った。

「人口100万人以下の県だからこそ県民が一つになり、熱くなれる何かが必要なんじゃないか。地域に根付いた真の地域密着型クラブを作るため、私は福井の地を選んだ」。

男の名は佐野達、サウルコス福井ゼネラルマネージャー（以下GM）兼監督だ。「サウルコス福井をJリーグへ昇格させ、福井にスポーツ文化が根付き、街が活気に溢れ盛り上がる」。彼はそんな夢を日々描いている男である。

県民の多くの方々に知って欲しい、サウルコス福井というチームを、そして佐野達を

「静岡県の清水はサッカーのまち。プロ化が進む以前からサッカー文化は根付いていたし、サッカーの楽しさを教えてくれる素晴らしい指導者がたくさんいた」。サッカー文化という環境のもと周りの子供たちと同じように幼い頃からサッカーを始め、小学6年生で全国大会優勝。ヨーロッパ遠征を経験し初めて海外を知った。

「福井にJリーグを」  
そのために私はこの地を選んだ。



15歳の佐野にその後の人生を決める大きな出来事が訪れる—

舞台はブラジル・リオデジャネイロ『マラカナンスタジアム』、佐野は静岡県中学生選抜チームの一員としてブラジル選手権準決勝の前座試合を戦った。彼は12万人の観衆を目の当たりにしてあることを誓う、「私は生涯サッカーの道を歩いていく!!」と。

「あの時の感動は今でも覚えている。私たちに海外遠征という環境や、サッカーの楽しさ・将来の可能性を与えてくれた清水の指導者（リーダー）たちには心から感謝している」。だからこそ今度は自らが子どもたちに同じような環境を与えたい、それが大人の役目なのではないかと彼は常に思っている。この出来事は、彼が自らの信条を『敬天愛人』とする原点でもある。

中学生の頃からポジションはセンターバック。清水商業高校では高校2年生の時に19歳以下の日本代表、法政大学では日本ユニバーシアード代表（世界大会に2度出場）と各年代の日本代表選手として数多くの国際試合も経験。『ヘディングの強さは国内で敵なし』と言われた。

大学3年の頃になると佐野のもとには10社以上の企業からオファーがあった。悩んだ末に彼が選んだのは日産自動車サッカー部、後の横浜F・マリノスだ。当時の日産は加茂周監督（元日本代表監督）のもと、木村・水沼・金田など日本代表を多く抱えるスーパースター軍団だった。

©週刊サッカーダイジェスト

佐野は入団1年目からレギュラーとして活躍した



彼が日産を選んだ理由の一つに先見性のあるフロント体制がある。入社当時（1986年）、既に日産はプロサッカーリーグの開幕に向け専用の練習グラウンドやクラブハウスを持ち、プロ化に向けて準備を進めていたという。佐野は社員ではなくプロとして契約した。

スター軍団を率いキャプテンとして出場した1989年度の第69回天皇杯決勝（日産vsヤマハ）では、木村和司の左コーナーキックを打点の高いヘディングで3-2の逆転決勝弾を決めて天皇杯二連覇に大きく貢献（試合中、鼻を骨折）。表彰式では高円宮殿下から優勝カップを受け取り、

天高く掲げた。この年チームはJSL、天皇杯、JSLカップの三冠を達成する。日本代表ではラモス瑠偉・三浦知良・中山雅史・井原正巳らと第11回北京アジア大会に出場。ラモスとは常に同部屋で、将来の日本サッカーについて熱く語り合った。

日本初のプロサッカーリーグ『Jリーグ』の発足を翌年に控えた1992年、佐野は膝の怪我を理由に29歳の若さで現役を退くことになる。1993年5月15日、東京国立競技場。Jリーグは華々しく開幕し一夜にして大ブームとなるのだが、その土台を作り上げた先人たちの中に佐野達がいことは間違いない。

「複数のチームからオファーを頂いた、でも私はマリノスが好きだったし…何より怪我をごまかしてまでプレーしたくなかった」。周りから見るとサッカー人生はそこで終わってしまうように感じる。だが15歳の時、生涯サッカーの道を歩いて行こうと決めていた佐野は決して立ち止まらなかった。彼にとってはサッカーに対する立場が変わっただけ、なのだろう。

主将として天皇杯優勝 佐野（右）と木村（左）



横浜マリノスフロント時代に川口をスカウト



引退後～1995年までは横浜マリノスのフロント（強化部強化担当）を務める。国内では後の日本代表となる川口能活や松田直樹をスカウトし、海外では長期間の欧州・南米でのスカウティング、アルゼンチン人監督の契約も担当した。横浜フリーユージュエルズ・コーチ時代には現在の日本代表の中心選手である遠藤保仁をスカウトし、横浜フリーユージュエルズ消滅後は遠藤を京都サンガへ一緒に移籍させた（遠藤とは今でも深い親交がある）。

その後、京都サンガ（コーチ）、ザスパ草津（コーチ）を経て2009年ザスパ草津の監督に就任した。

2010年、『3年でJ2昇格』を公約としV・ファアレン長崎（当時JFL）の監督に就任。約束の2012シーズンは見事JFL優勝という結果でクラブをJ2へと導いた。監督自身もこの年にJFL年間最優秀監督賞を受賞した。

そして、佐野の新たな挑戦は福井で始まる—

サウルコス福井  
ゼネラルマネージャー兼監督

# 佐野 達

Toru Sano (50歳)



信条とする言葉: 敬天愛人

## プロフィール

### ●選手歴

1979年～1981年 清水商業高等学校  
1982年～1985年 法政大学  
1986年～1992年 横浜マリノス(U1 日産FC・日産自動車)

### ●指導歴

1993年～1995年 横浜マリノス(U1)強化部 強化担当  
1996年 横浜マリノス(U1) ユースコーチ  
1997年～1998年 横浜フリューゲルス(U1)コーチ(天皇杯 優勝)  
1999年～2003年 京都パープルサンガ(U1) コーチ 監督代行(天皇杯 優勝)  
2004年 サッカー解説者(スカパー、NHKBS, TVK), サッカー教室  
2005年～2006年 ザスパ草津(J2)チャレンジャーズチーム監督  
2007年～2008年 ザスパ草津(J2) コーチ  
2009年 ザスパ草津(J2) 監督  
2010年～2012年 V・ファレン長崎(JFL) 監督(JFL 優勝 J2昇格)  
※2012年 JFL(日本フットボールリーグ)最優秀監督  
サウルコス福井GM兼監督(北信越1部)  
北信越リーグ優勝・フェアプレー賞、全国社会人サッカー選手権北信越大会優勝  
全国社会人サッカー選手権全国8強、全国地域サッカーリーグ決勝グループ2位

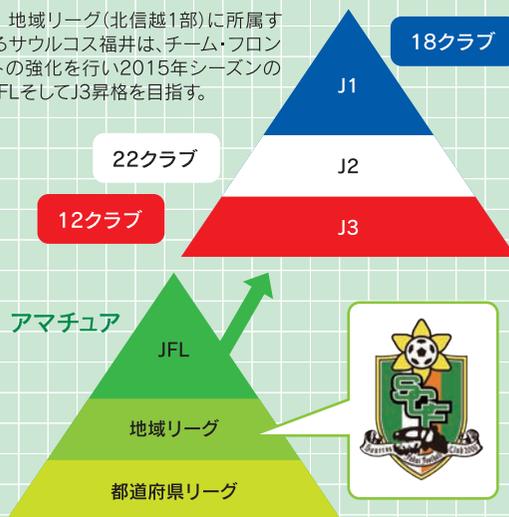
### ●日本代表歴

1980年～1982年 日本ユース代表(U19)・日本高校選抜  
1984年～1986年 日本ユニバーシアード代表・日本学生選抜  
1987年～1990年 日本代表(W杯予選・アジア大会)

●コーチライセンス 日本サッカー協会公認S級コーチライセンス(2004年取得)

## Jリーグの構成

地域リーグ(北信越1部)に所属するサウルコス福井は、チーム・フロントの強化を行い2015年シーズンのJFLそしてJ3昇格を目指す。



## 子供たちに夢を、地域の皆様と共に子供たちを育てます。

子供たちにサッカーを通して体を使って運動すること、仲間と活動することによる組織的な意識形成、何よりも福井県内で健康で生きがいのある目的意識を持った子供を育てたい。

地域の子供たちの育成や家族の絆づくりの活動を福井県の地域活性化につなげてまいります。

### ふれあいサッカー

ふれあいサッカーでは、スポーツを通して福井の子供たちに夢を提供し、楽しみを共有できる環境を整え、子供たちに元気を与えます。社会貢献活動の一環としてサウルコス福井スタッフ・選手が参加いたします。

### 幼稚園巡回サッカー

児童にスポーツの楽しさや、生涯にわたるスポーツを実践する素地を養うと共に、スポーツを通して「思いやり、協調、尊重」など教育的側面から実施しています。



サウルコスの一員として、共に働こう。  
サポーター☆スタッフ募集中!  
詳しくはHPをご覧ください。

サウルコス福井

検索

サウルコス福井  
オフィシャル  
フェイスブック

